

## 1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

タブレット等のICTを活用した授業、英語モジュール学習など、新たな学習形態が入り、先生方も大変だとは思いますが、次世代を担う子どもたちのために、教材の開発・工夫、研修会の参加など、授業力を高めていってほしい。また、基本的な生活習慣・学習習慣と学力に相関関係があることがわかった。家庭への啓発を行い、まずは基本的で規則正しい生活習慣を身につけさせるようにしていきたい。

体力面に関しては、遊び場の問題やゲームなどで遊ぶ子どもが増え、学校外で体を動かす時間が減った。地域でも子供会活動を軸として考えていくが、学校で体を動かすことの大切さ・楽しさを様々な取り組みを通して教えていく必要がある。また、手洗い・うがいの習慣や食への関心など、子どもたちが健康面を意識的に考え、取り組んでいるのがわかった。

「学校運営の計画」の最終評価の次年度への改善点を見ていると、抽象的な表現が多いように思う。会議などで、課題や改善点は見えていていると思うので、それをもう少し具体的に考え、明記し、来年度の教育活動に生かしてほしい。

## 2 年度目標ごとの評価

## 【学力の向上】

今年度から始まった「大阪市小学校学力経年調査」は、初めてのテストなので難易度等わからない部分が多い中での目標設定等、難しかったと思う。来年度以降は今年度のデータをしっかりと分析し、適正な目標を設定して、目標達成・学力の向上に取り組んでほしい。

英語学習は、低学年からネイティブの発音に触れる機会を作れたことは良かった。ネイティブの発音に触れる機会を、次年度以降もよりたくさん作るようにすると思う。

## 【道徳心・社会性の育成】

あいさつに関して、以前はあいさつをしない子どもは全くしなかったが、最近はあいさつができる子どもが増えた。登校時は見守り隊によくあいさつしてくれる。母親からも声をかけかけられることがあり、うれしく思った。

校区内のマンションの中や家と家の隙間などを使って鬼ごっこをしている姿を見かけた。マンションや家の間から道路に飛び出してくることがあり、非常に危険を感じている。地域の協力も必要だと思うが、校外での遊び方の指導も必要である。

## 【健康・体力の保持増進】

体力増進のためには、運動量の確保が大切である。体育授業内での運動量の確保をしっかりと行うとともに、かけ足週間、なわとび週間、スポーツ集会などの取り組み、学級での「みんな遊び」など、年間を通しての継続した働きかけが必要である。子どもたちが運動を楽しめるよう努めてほしい。

今年度の運動会もとても素晴らしかった。達成感や協力して創り上げる気持ちを育てるために、運動会での組体操はやってほしいが、児童の安全は第一に考えなければならないと思う。無理をせずできる範囲の技で取り組んでほしい。

給食の残食率が非常に低いのは素晴らしい。このことは、担任の先生方の工夫した取り組みのおかげだと思う。

## 【特別支援教育の充実】

特別支援学級に在籍していない児童も含めて50人ほどの子どもたちを、限られた人員で、子に合った支援をいねいにしてもらっている。しかしながら、より充実した支援となるよう補助員やサポーターのさらなる増員が必要だと思う。学校協議会としても市や区にはそれに係る予算の増額をお願いしていきたい。

## 3 今後の学校運営についての意見

この3年間、様々な課題も生じていると思うが、おおむね学校は安定し、子どもたちも楽しい学校生活を送っている。今後も、開かれた学校運営に努め、保護者や地域と密に連携して、子どもたちの健全育成に努めてほしい。地域も全面的に協力していく。